前橋赤十字病院だより

HAKUAI+

［はくあい プラス］

Japanese Red Cross Maebashi Hospital

TAKE FREE

vol. 81

2025 spring

特　集　これからの医療と看護を支える新たな制度

〈特集〉臨床工学技士とは②

〈救急最前線より〉熱傷治療の進歩

〈TOPICS＆NEWS〉万博に響く、“人道”というメッセージ／スプリングコンサート

大阪・関西万博（EXPO 2025）に出展しています

みんなにとってやさしい、頼りになる病院

前橋赤十字病院

特集

これからの医療と看護を支える新たな制度

皆さん、看護師特定行為研修をご存知でしょうか？
看護師特定行為研修は、看護師が診療の補助として特定行為を実施する場合に必要とされる高度かつ専門的な知識や技術の向上を図るための研修です。
研修を修了した看護師（以下特定看護師）は、医師の指示を待たずに手順書に基づき21区分38行為の中で該当する特定行為が実施可能となります。

看護師の特定行為とは？

特定看護師を育成することで、患者さんに対しタイムリーな医療と看護を提供し苦痛軽減や重症化リスクの低減につなげる他に、医師の働き方改革の推進に伴うタスク・シフト/シェアや在宅医療の推進に貢献ができます。更に現在の日本の医療現場は、超高齢化や医師不足といった課題が深刻化しており特定看護師の役割が重要視されてきています。そのような背景から、国の政策として2015年より看護師特定行為研修が開始となり2020年からは認定看護師のカリキュラムにも組み込まれるようになりました。
看護師が特定行為を実施するにあたり必要となる手順書は、医師が看護師に診療の補助として特定行為を行わせるためにその指示として作成する文書のことで「特定行為看護師に医療の補助を行わせる患者さんの病状の範囲」や「診療の補助内容」が記載されています。

前橋赤十字病院における看護師特定行為研修

日本赤十字社では、在宅医療の場を想定した特定行為区分である「在宅・慢性期領域パッケージ」以外にも、急性期医療の場を想定した各区分の研修や「術中麻酔管理領域パッケージ」、「救急領域パッケージ」の研修を実施しています。前橋赤十字病院は2019年に看護師特定行為研修の指定研修機関となり、同年10月より研修を開始しています。当院で研修の受講が可能な特定行為区分は赤線で囲まれた8区分14行為あり、2025年の4月からは新たに3区分7行為の研修が追加されました。また、日本赤十字社以外の特定行為研修として、「日本麻酔科学会特定行為パッケージ」の研修も実施しています。

研修の全体像

共通科目
【講義・演習】放送大学での履修
【実習】前橋赤十字病院で実施

＋

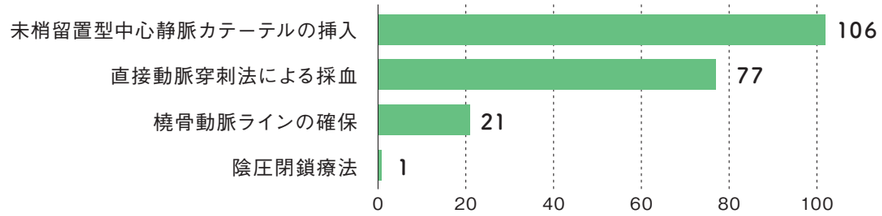
区分別科目
【講義】日本赤十字社のe-ラーニングを履修
一部、前橋赤十字病院で対面授業実施
【演習・実習】前橋赤十字病院で実施
【実習】自施設で実施

特定行為区分および特定行為（21区分38行為）と前橋赤十字病院で受講可能な特定行為区分および特定行為（11区分21行為）

特定行為区分	特定行為
1 呼吸器（気道確保に係るもの）関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整
2 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更
	非侵襲的陽圧換気の設定の変更
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整
	人工呼吸器からの離脱
3 呼吸器（長期呼吸器療法に係るもの）関連	気管カニューレの交換
4 循環器関連	一時的ペースメーカの操作及び管理
	一時的ペースメーカリードの抜去
	経皮的心肺補助装置の操作及び管理
	大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助頻度の調整
5 心嚢ドレーン管理関連	心嚢ドレーンの抜去
6 胸腔ドレーン管理関連	低圧胸腔内持続吸引の吸引圧の設定及び設定の変更
	胸腔ドレーンの抜去
7 腹腔ドレーン管理関連	腹腔ドレーンの抜去（腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む）
8 ろう孔管理関連	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換
	膀胱ろうカテーテルの交換
9 栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	中心静脈カテーテルの抜去
10 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入※
11 創傷管理関連	褥瘡又は慢性創傷の治癒における血流のない壊死組織の除去
	創傷に対する陰圧閉鎖療法
12 創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去
13 動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血
	橈骨動脈ラインの確保
14 透析管理関連	急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理
15 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
	脱水症状に対する輸液による補正
16 感染に係る薬剤投与関連	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与
17 術後疼痛管理関連	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
18 血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整
19 循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整※
	持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整※
	持続点滴中の降圧剤の投与量の調整※
	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整※
	持続点滴中の利尿剤の投与量の調整※
20 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	抗けいれん剤の臨時の投与
	抗精神病薬の臨時の投与
	抗不安薬の臨時の投与
21 皮膚損傷に係る薬剤投与関連	抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整

□ 前橋赤十字病院で受講可能　※2025年4月より開始

2024年度 看護師特定行為実施件数（病棟/外来）



看護師特定行為研修では、チーム医療の一員として質の高い医療を提供するために臨床推論を基盤とした実践的な理解力、思考力および判断力、高度かつ専門的な知識・技能を有する看護師を育成するために講義、演習、実習、評価で構成された教育プログラムに基づいて実施しています。特定行為研修は共通科目と区分別科目より構成されています。

共通科目

共通科目は放送大学での履修（5単位176時間）と前橋赤十字病院での演習・実習（91時間）で構成されており、実習では、医療安全学やチーム医療の実習、臨床推論を基盤とした医療面接やフィジカルアセスメントのSBL（Simulation-based-Learning：シミュレーション学習）での演習を行います。

区分別科目

区分別科目では、日本赤十字社のeラーニングを履修し各区分に合わせたカリキュラムに沿って演習・実習を行います。主な実習の場としては救急外来、ICU、手術室があり、「高持続点滴中のカロリー輸液の投与量の調整」では栄養サポートチームのラウンドや「創傷に対する陰圧閉鎖療法」などの区分では褥瘡ラウンド、「インスリンの投与量の調整」では内分泌・糖尿病内科外来など、それぞれの区分に応じて効果的な実習ができるよう学びの場を設定しています。

研修の様子

病棟や外来における特定看護師の活動

当院には現在25名の特定看護師が在籍しています。病棟や外来に所属する特定看護師は、研修終了後から主にそれぞれの所属部署において当院で実施可能となっている『直接動脈穿刺法による採血』や『橈骨動脈ラインの確保』、チーム医療の中では『血流のない壊死組織の除去』や『創傷に対する陰圧閉鎖療法』といった特定行為を実施しています。2024年4月からは毎週水曜日に医師より依頼のあった患者さんに対し、『末梢留置型中心静脈注射用カテーテル（PICC）の挿入』を開始しました。PICCは主に上腕の末梢静脈から挿入する中心静脈カテーテルで、点滴の度に針を刺す必要がなく長期間にわたり使用可能であり、薬液の血管外漏出を起こしにくくするなど点滴に伴う患者さんの負担を軽減することができる医療器具になります。2024年度は100件を超える特定看護師によるPICCの挿入を実施しました。その結果全て安全に留置ができ、患者さんからは繰り返し点滴を挿し直す必要がなくなることで喜びの声が多く聞かれました。また医師からはPICCの挿入を特定看護師に依頼することで、他の診療に集中することができるなどの感謝の言葉をいただきました。さらに特定看護師は、特定行為の実施だけでなく研修中に学んだフィジカルアセスメントや臨床推論などの知識を日々の看護実践に活かしています。

特定看護師による
PICC挿入

手術室での
特定行為実践

手術室における特定看護師の活動

手術室では、2022年6月より看護師による特定行為の活動を開始しました。現在は麻酔科専従の麻酔特定看護師として、麻酔科医師と行動を共にしながら業務に従事しています。医師との信頼関係の構築や一体感の醸成がスムーズとなり、医療安全上の観点からも安心して日々知識・技術の向上に励むことができています。

麻酔特定看護師は、担当する手術の麻酔器点検及びセッティング、術式に応じた麻酔薬品などの麻酔管理物品の準備などに関わり、麻酔導入後には麻酔科医師のもとで手順書に基づいた特定行為を実施しています。また、各術式・術野展開に応じた術中の呼吸・循環・鎮痛剤等の術中麻酔管理は、包括指示に基づいて実施しています。

当院では、様々な診療科において、予定以外の緊急手術に24時間体制で対応しているため、麻酔科医師の負担は必然的に増大しています。麻酔特定看護師が診療の補助業務としてタスクシフトを引き受けることは、麻酔科医師の負担軽減に繋がります。何より、手術が必要な方が、必要な時に、よりスムーズかつ安全に手術を受けることに寄与ができることが最大のメリットであると認識しています。

特定看護師と指導責任医師、看護部長、担当副看護部長

特定看護師の展望

当院における特定看護師の活動はまだまだ発展途上です。今後も病院のニーズに即した特定行為区分の実施や育成を行い、また特定看護師の知識や技術の更なる向上を図っていく必要があります。その上で、これからの前橋赤十字病院の安心で安全な医療と看護の提供を支えていけるよう一丸となって頑張っていきたいと思います。

手術室 特定看護師 中村雅輝
救急外来 特定看護師 関山裕一
3A B病棟 特定看護師 阿部絵美

特集 What is a clinical engineer?

臨床工学技士とは 2

国家資格のある
医療機器の
専門家です！

皆さんは「臨床工学技士」がどんな職業か、
ご存知でしょうか。
前号ではその概要をご紹介いたしました。
引き続き今号ではより詳しい業務の内容を
ご紹介していきます。

医療機器管理業務について

病院では数多くの医療機器が使用されています。当院の臨床工学技術課では15種類、約1000台の医療機器を管理しています。主な機器は輸液、シリンジポンプ、人工呼吸器、除細動器、生体情報モニターなどがあります。
医療機器を安全に使うためには使用前中後の点検や精度が維持できているかの定期点検を行います。また、患者さんへ使用中の機器が適切に稼働しているかの点検も行っています。その際に患者さんの病気に合わせた設定になっているかを理解しなければならないため、医学と工学の知識をもった臨床工学技士が対応しています。
多くの医療機器は患者さんの命に関わります。万全の体制で治療を受けてもらうために責任感を持って医療機器を管理しています。
医療機器は日々進歩し性能が上がっていますが、その反面操作方法などは複雑化しています。医療機器は正しく使ってこそ、その性能を発揮しますが、間違った使い方をすると性能を発揮しないばかりか、事故につながります。医療機器の専門家の我々が直接使用する場合もありますが、医師や看護師の方が操作することも少なくありません。医療機器の適正使用のための院内資料作成やスタッフへの指導も臨床工学技士の業務です。

管理する医療機器の一部

除細動器の定期点検

透析装置の
メンテナンス

難しい血管への針刺しも
超音波装置を使用して
安全に実施します

高気圧酸素治療

安全第一に
医療機器を通じて
治療に貢献しています。

血液浄化業務について

血液透析浄化業務でも主に治療に使う装置の準備や操作、点検などを行っています。
一度に30人の方が透析を受けるため準備室には大きな装置があり、そこで使用する薬剤などの準備をしています。使用後はこれらの装置の洗浄業務やメンテナンスなどを行っています。月曜から土曜日までの週6回の治療や夜間休日の緊急透析にも対応するために日々準備しています。透析は人工腎臓で患者さんの血液をきれいにして、戻す治療です。そのために必要な針を患者さんに刺しています。また、患者さんの体調を伺って、医師に報告し指示を受けて、体調にあった設定を装置に入力しています。医療機器のスペシャリストというイメージのある臨床工学技士ですが、患者さんに寄り添いながら治療も行っています。患者さんからの感謝の言葉や笑顔は業務の励みとなっています。

高気圧酸素療法業務について

高気圧酸素療法は、通常よりも高い圧力の環境下で酸素を吸入する治療法です。酸素をより多く取りこみ、突発性難聴や一酸化炭素中毒などの病気の回復を早める効果があります。
一酸化炭素中毒は事故や火災の場合など緊急症例も少なくありません。当課は365日24時間で対応しています。

いかがでしたでしょうか？臨床工学士は、高度、複雑化する治療や医療機器に対応するために医学的知識と工学的知識を併せ持つ国家資格のメディカルスタッフです。高度な医療機器を扱う現在では医療チームに欠かせない存在となっています。

救急最前線より
emergency front line

theme:

熱傷治療の進歩

集中治療科・救急科部長
藤塚 健次

熱傷（やけど）は、高温の物質が皮膚に接触し、損傷を引き起こした状態です。近年、熱傷患者数は減少傾向にありますが、未だ小児や高齢者に多く見られています。受傷原因としては、高温の液体や火炎によるものが多く、不慮の事故によるケースも存在しています。近年、熱傷治療の進歩により、救命率の向上だけでなく、機能予後（整容や動かしやすさなど）の改善も期待できるようになりました。今回は、治療の鍵となるデブリードマン（壊死組織の除去）と植皮術について、最新の治療について紹介します。

デブリードマンの進歩

●高速水流デブリードマンシステム

従来のデブリードマンは、メスや電気メスを使用して行われていました。しかし、健常な組織を必要以上に切除してしまうリスクがあり、正確な除去が難しいという課題がありました。高速水流を用いたデブリードマンは、極めて薄く精密な切除が可能であり、健常組織をより多く残せるため、非常に有用です。

●化学的デブリードマン

外科的にメスで切除するのではなく、酵素を含む軟膏を使用し、壊死組織を溶かす方法です。近年、パイナップル由来のタンパク分解酵素を利用した製剤が登場しました。この方法では、手術室を必要とせず、健常組織へのダメージを最小限に抑えながら、簡便かつ迅速に壊死組織を除去できます。植皮術の進歩

植皮術では、これまでスキンバンク（献皮された皮膚）や、コラーゲンを含む人工真皮を用いた一時的な創閉鎖が行われてきました。近年は、さらに進化した技術が開発されています。

●自家培養表皮

熱傷面積が30％以上で、中等度から重度の症例に適用されます。患者自身の皮膚を採取し、培養し、シート状に加工したものを移植する方法です。ただし、培養には3～4週間を要するため、計画的な治療が必要です。この方法は、移植部の瘢痕を柔らかくし、除痛効果にも優れています。

●MEEK植皮と自家細胞懸濁液噴霧

MEEK植皮は、小さくカットした植皮片（マイクログラフト）を移植する方法で、一度に広範囲を被覆でき、手術回数を減らせます。また、マイクログラフトを細胞単位まで小さくし、スプレー状に噴霧する自家細胞懸濁液製剤も登場しました。この技術により、少量の皮膚採取で広範囲の被覆が可能となります。このように、熱傷治療は日々進歩しています。これらの新しい技術や製剤を活用し、多職種が連携するチーム医療によって、患者さんの治療と回復を支えていきます。

健康学
Health science
第18回

たけのこ

たけのこは成長が速く、限られた期間しか生のたけのこを楽しむことができません。国内で一般的なモウソウチクのたけのこは3月から5月が旬で、この季節ならではの代表的な食材です。たけのこは独特の香りと味、そして歯応えが特徴で、煮たり焼いたりとさまざまな料理に使われます。
また、食物繊維が豊富で腸内環境を整え、コレステロールの吸収を抑え、塩分の排出を促すカリウムを多く含むため、動脈硬化や高血圧の予防も期待できます。
国内のたけのこの総生産量は2019年で22,284.9トンにのぼり、西日本の福岡県や鹿児島県が主な生産地です。一般的に店頭で購入できるたけのこの品種はモウソウチクですが、他にもマダケ、ハチク、シホウチク、チシマザサなどの品種があります。モウソウチクは柔らかく香りも良い品種で、3月から5月にかけて収穫されます。マダケは細身で苦味があり、5月から6月が旬です。ハチクは甘味があり淡白で、5月が旬です。シホウチクは高知県で栽培され、10月から11月上旬が旬です。チシマザサは北日本を中心に生産され、6月頃に旬を迎えます。
春になると、直売所や道の駅、産直市場などで手作りのゆでたけのこが売られていることがあります。今回のレシピは春を感じられるたけのこごはんです。機会があればぜひチャレンジしてください。

たけのこごはん

【材料】2人前
お米…2合
ゆでたけのこ…150g程度
油揚げ…1/2枚
乾燥さくらえび…大さじ3
だし汁…300ml程度
醤油…大さじ2と1/2
みりん…大さじ2と1/2
木の芽…少々

【作り方】
❶お米は研いで30分から1時間ほど浸漬させておく。
❷たけのこの穂先は繊維に沿って5mm幅に縦に切り、根元は繊維を断つように5mm幅のいちょう切りにする。
❸油揚げはみじん切りにする。
❹お米はざるにあけてしっかり水気をきる。
❺お米を炊飯器の釜に移したら醤油、みりんを加えよく混ぜ合わせる。
❻だし汁を2合の目盛りまでそそぐ。
❼❷❸と乾燥さくらえびをすべて❻の上にのせ、普通モードで炊飯する
❽炊飯が完了したら簡単に全体を混ぜ合わせる。
❾お好みで荒く刻んだ木の芽を盛り付けて出来上がり。

TOPICS & NEWS

前橋赤十字病院の最新情報やトピックスをご紹介

TOPICS

万博に響く、“人道”というメッセージ

― 1867年のパリから、2025年の大阪へ。変わらぬ志を、次の世代へ。―

大阪・関西万博において、赤十字は「国際赤十字・赤新月運動館」として国連などの国際機関と同じ区画にパビリオンを出展しています。

テーマは、「人間を救うのは、人間だ。」
国籍も宗教も関係なく、目の前の“いのち”に向き合う――その想いのもと、世界各地で活動する赤十字の姿を紹介するパビリオンです。パビリオンの中心には、臨場感あふれる半球型ドームシアターが設置され、紛争や災害、貧困などの人道危機に立ち向かう人々の姿が描かれます。そこにあるのは、特別なヒーローではなく、どこにでもいる普通の人たち。
“人間のチカラ”こそが、誰かのいのちを救う――そんな強いメッセージが胸に響きます。

1867年のパリ万博では、赤十字が初めて国際社会に理念を発信しました。
その同じ場を訪れていた当時佐賀藩士だった佐野常民もまた、赤十字の思想に深く感銘を受け、日本での赤十字設立へとつながっていきます。
世界に向けて赤十字が初めて姿を現した万博と、日本に赤十字の種がまかれた万博。そして今、2025年の大阪で再び、赤十字は未来に向けて「人道」の想いを発信しています。人を救うのは、人。それは過去も、今も、これからも変わらない、赤十字の信念です。

世界が再び困難に直面しているこの時代にあって、赤十字は大阪の地から、「人道」のメッセージを次の世代へ届けようとしています。
あなたもぜひ、赤十字の物語に参加してみませんか？未来へつながる“人のチカラ”を感じに、万博会場へ足を運んでみてください。

赤十字パビリオン ゾーン2のイメージ

赤十字パビリオン ゾーン3のイメージ

TOPICS

「スプリングコンサート」を開催しました

2025年2月26日（水）19時から、本院外来棟1階エントランスホールにて本県出身の国立音楽大学卒業生のみなさんによる「スプリングコンサート」を開催しました。歌曲にオペラに歌謡曲まで様々な曲が演奏され、たくさんの患者さんやご家族にご来場いただきました。
イタリアのカンツォーネとして有名な「オー・ソレ・ミオ」に演劇をみているようなオペラ「フィガロの結婚」、打って変わり「津軽海峡冬景色」や「川の流れのように」と日本の歌謡曲が披露され、花々が咲き乱れるような春の童謡メドレー、コミカルな掛け合いも楽しい「猫の二重奏」とレパートリーにとんだ楽曲が披露されました。最後は歌曲「椿姫」の舞踏会で歌われる有名なアリア「乾杯の歌」に、アンコール曲「いのちの歌」では雄大な歌声が響き渡り、盛大なフィナーレをむかえました。コンサートに参加した患者さんからは、「病院ではなくコンサートホールにいるよう」「久しぶりに生のプロの歌唱を聴けて感動した」等のお言葉をいただきました。
院内コンサートは定期的に開かれ、どなたでも入場できます。皆様のお越しをお待ちしております。

左からメゾソプラノ 寶条あきさん（前橋市出身）、ピアノ 藤田美久さん、テノール 櫻澤人陸さん（沼田市出身）

十字路

医療安全のさらなる高みを目指して

このたび、一般社団法人 国際医療安全推進機構・国際医療安全高等教育院のアカデミックフェローコース（2年間）を修了し、「医療安全アカデミックフェロー」の資格を取得いたしました。併せて、「医療安全高度推進者」としての認定も受け、医療安全に関する専門知識と実践力を一層高めることができました。

この2年間は、挑戦と学びに満ちた貴重な時間でした。このような学びを深める貴重な機会を与えてくださった病院、この挑戦を後押ししてくださった病院幹部の方々、そして温かく見守ってくれた麻酔科の仲間たちに、心より感謝申し上げます。この経験は、私にとってかけがえのない財産となりました。

今後は、ここで得た知見を現場へと還元し、スタッフの皆さんとともに、病院全体の安全文化をより強固なものとすべく、具体的な改善に取り組んでまいります。

また、日本赤十字社が主催する『医療安全管理者養成研修』ではタスクフォースの一員として活動し、教育・研修の現場にも携わっております。加えて、「日本医療安全学会」代議員、「日本医療安全推進学会」評議員、さらに一般社団法人 医療安全推進機構における国際評議員および特別研究員として、国内外の最新の知見を吸収し続けています。こうした活動を通じて、当院の安全管理体制のさらなる強化に努めてまいります。

これからも、誰もが安心して医療を受けられる環境の実現に向けて、医療安全のさらなる向上に全力で取り組んでまいります。一人ひとりにとって、確かな医療と信頼できる場であり続けるために――その歩みを止めることなく、挑戦を続けてまいります。

（柴田正幸）

世界患者安全の日

9月17日は「世界患者安全の日」。WHOが2019年に制定したこの国際デーには、医療の安全性向上を願い、世界各地の建物がオレンジ色にライトアップされます。2024年には、東京都庁第一本庁舎や隅田川にかかる10の橋（白鬚橋、吾妻橋、駒形橋、厩橋、蔵前橋、清洲橋、永代橋、佃大橋、勝鬨橋、築地大橋）がオレンジ色に染まりました。

オレンジは「患者の声に耳を傾ける」ことの象徴。その光に込められた想いに恥じぬよう、私たち医療従事者も、より安全な医療をめざして、日々努力を重ねていかねばと改めて感じさせられます。

「理念」と「基本方針」

理　念　みんなにとってやさしい、頼りになる病院

基本方針
1. 自分や家族がかかりたい病院となる
2. 社会に必要とされる病院となる
3. 職員が働きたい病院となる
4. 経営が安定している病院となる

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society　前橋赤十字病院

最新の情報につきましてはホームページをご覧ください。
http://www.maebashi.jrc.or.jp

〒371-0811 前橋市朝倉町389番地1
Tel.027-265-3333　Fax.027-225-5250
e-mail:maeseki@maebashi.jrc.or.jp

編集：前橋赤十字病院広報委員会
発行責任者：事務部長　太田 吉保

■診療受付／午前8時30分～午前11時
■診療開始／午前9時
■休　診　日／土曜日・日曜日・祝日
年末年始（12/29～1/3）・創立記念日（3/23）

◎広報・ホームページに関するご意見ご感想がありましたらお知らせください。